

## ミッションステートメント

- 地域再生人材養成ユニット名「社会基盤メンテナンスエキスパート養成」
- 総括責任者名 「森 秀樹」
- 提案機関名 「岐阜大学」

### (1) 地域再生人材創出構想の概要

#### ①地域の現状と課題

岐阜県は、

- ◆ ゼロメートル地帯（海拔 0m）から標高 3000mまでを有し、あらゆる自然災害が多発する
- ◆ 道路普及率等、県民の暮らしや社会経済を支える社会基盤全般が不足している
- ◆ すべての社会資本における老朽化現象が県内の施設で現れる

といったように、多発する災害、不足する社会基盤整備、および既存施設の老朽化の観点で日本の縮図といっても過言ではない。これらへの早急な対応にせまられる状況において、

- ◆ 公共投資の削減やインハウスエンジニアの減少により、社会資本の安定的な供用が脅かされている。
- ◆ 予防保全の観点で不可欠な地域建設関連業界は、受注の激減により経営は危機的状況にある

といった課題に直面している。また同時に、「県の経済活動や雇用を支える地域建設関連業界の疲弊は、地域の活性化を阻害」する大きな問題ともなっている。

#### ②人材養成の目的

先に述べた課題を抱える背景として、

- ◆ 社会資本を管理する行政、および地域建設関連業の技術力が決して高くない

ことがあげられ、課題の解決にあたっては、

- ◆ 発・受注者双方の技術力向上を図るため、地域の人材育成と確保が最も重要

であり、これら人材養成を通じた「安全・安心な県土の保全」と「地域の活性化」の実現を目的とする。

#### ③人材養成の手法

平成 20 年度から平成 24 年度までの 5 年間、岐阜県と連携し、

- ◆ 岐阜大学に「**社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成ユニット**」を設置する
- ◆ 所定の実務経験\*を有する「県土木職員・市町村土木職員（以下、県等土木職員）」と「県内建設業界技術者」に対し、表-1 に示す少数人数制**短期集中カリキュラム**を実施する
- ◆ カリキュラムの実施にあたっては、災害と老朽化の観点で日本の縮図ともいえる岐阜県から提供される、金額では計り得ない貴重なフィールドにおいて、他では得られない実務を身につける
- ◆ 認定審査に合格した者に「**社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）**」の資格を付与する

※県等土木職員：社会基盤の整備・維持管理に 2 年以上携わった経験

建設関連業界技術者：社会基盤整備・維持管理の調査・設計・施工に 3 年以上携わった経験

表-1 短期集中カリキュラム

科目	アセットマネジメント基礎科目	社会基盤設計実務	点検・施工・維持管理実習
内容	アセットマネジメント概論 アセット情報収集演習 リスクマネジメント論 耐力(劣化)評価モデル構築論 ファイナンシャル論 アセットマネジメント演習	設計概論 設計演習 対策・補修・補強設計演習 品質管理演習	維持補修概論 点検・管理実習 対策・補修・補強手法実習 施工管理実習

#### ④人材の活動内容

**社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）**は、出身母体に応じた以下の活動を通じ、具体的に地域再生へ貢献する。

- ・**県等土木職員**：県等、あるいは財団法人建設研究センターに設立する「アセットマネジメント室（仮称）」に配属され、「**長/中/短期的な社会基盤の整備・維持管理計画の策定**」に従事する。
- ・**県内建設業界技術者**：「所属会社、JV、コンソーシアムでの防災・維持管理業務で主体的な役割」を担い、地域建設業界における「**工事品質の確保**」と「**質の高い技術提案**」に努める。

#### （2）3年目における具体的な目標

新たな社会資本の整備、既存社会資本の維持管理・補修の計画・設計・実施についての総合技術を習得した養成者が蓄積され、県土の保全を通じて地域再生に向けた準備が本格化する時期である。

##### ① 人材養成対象者の到達レベル

人材養成対象者は、養成ユニットで習得した技術により以下のことが実施可能なレベルにある。

- ・効率的なアセット情報の収集、これに基づく長/中/短期的な社会資本の整備、維持管理の計画
- ・新たな社会資本の整備や維持管理、およびこれらの効果的な補修を設計、あるいは設計を管理し、かつ設計のミス防止等に向けた取組みを実行
- ・新たな社会資本の整備・維持管理・補修の設計を理解するとともに、現場に応じた合理的な提案を修正・提案しつつ、これに基づいて適切に実施・施工、あるいはこれらの管理

##### ② 養成人数

県等土木技術職員 25名、県内建設業技術者 25名 合計 50名（初年度 10名、2年度以降 20名）

##### ③ 養成された人材の活動内容

- ・**県等土木職員**：アセット情報を収集し、短期的社会資本の整備、維持管理・補修とともに、長/中期的な整備、維持管理・補修を計画し、今後の県土保全に向けた準備段階を本格化する。
- ・**県内建設業界技術者**：質の高い社会資本の整備、維持管理・補修を通じて、建設関連業再生を実現すべく、その活動範囲を所属会社だけでなく、JVやコンソーシアムといった実施体制のプロトタイプを試行錯誤し、効率的なMEの活用と社会基盤保全の形を作り上げる。

#### （3）実施期間終了後の取組

新たな社会資本の整備、既存社会資本の維持管理・補修の計画・設計・実施手法を習得した養成者が、

県土の保全を通じて地域再生に向けた活動を展開する。

#### ① 人材養成対象者の到達レベル

4、5年目の人材養成対象者は「(2) 3年目における具体的な目標」で示したレベルに達し、3年目までの人材養成対象者は、その後の活動を通じて周辺技術者の意識改革や技術力の向上など、さらなる人材育成に寄与しうるレベルに達する。

#### ② 養成人数

この時点での養成人数は、総計100名を目指す。

- ◆ 県等土木職員：45名
- ◆ 県内建設業者技術者：55名

#### ③ 養成された人材の活動内容

養成された人材の活動内容は、それぞれの出身母体に応じて以下の活動を行う。

- ・ **県等土木職員**：県等、あるいは財団法人建設研究センターに新たに設立する「アセットマネジメント室（仮称）」に配属された技術者は、引き続き短期的な社会資本の整備、維持管理・補修を行うとともに、これまでに策定してきた長/中期的な整備、維持管理・補修計画の実現を図る。
- ・ **県内建設業界技術者**：養成ユニットから輩出されたMEを中心とする所属会社、JV、コンソーシアムといった実施体制のもと、質の高い社会資本の整備、維持管理・補修を通じて、自らの建設関連業の再生を図る。

また、さらに技術者の質を高めるため、以下に示すような取組への積極的な参加を促す。

- ◆ 岐阜大学に設置する「社会資本アセットマネジメント技術研究センター」での中心的な活躍
- ◆ 岐阜大学大学院博士前期課程および博士後期課程での研究開発
- ◆ 産官学で取り組む継続的な研究開発

#### (4) 期待される波及効果

- ◆ 県および市町村では、社会資本の整備、維持管理に対する意識が高まり、インハウスエンジニアの不足を補っても余りある活力が生まれる。
- ◆ 県内建設業界の再生が軌道に乗り、地域経済と雇用が活性化し、岐阜県全体の活力が高まる。
- ◆ 地域において、社会資本が安定的に供用されることは、単に地域の物流を担うだけでなく、産業・観光・福祉・教育など地域を支えるすべての活動が安心して継続的に営まれることを意味し、地域の再生・活性化に大いに資することになる。

**このミッションは、今後の社会資本の整備・保全に携わる人材育成の最適なモデルであり、岐阜県のみならず、国内外への大きな波及効果が見込まれる**